聖母マリアがトルコに

西暦431年に公会議が開かれた聖母マリア教会跡

街を歩けば、どこでもジングルベルが流れている。

キリストの生誕を祝うクリスマスではなく、ケーキやプレゼント用品を売るなどすべてが商業ペースである。

そう言えば先日、息子の結婚披露宴で、会場に併設されている式場の教会を見たが、本物の教会以上に教会らしかった。最近は偽装事件が多く、本物がわかりにくい世の中である。

さて、トルコ巡礼二日目の夜を過ごしたイズミールは、エーゲ海に面した人口二百七十万余りのトルコ第三の都市。吟遊詩人ホメロスが生まれたところとしても有名である。

イズミールから車で南に一時間、トルコ最大の遺跡エフェソがある。当時は沿岸都市として栄えたが、土砂で港が埋まり、次第に内陸となって街が寂れたのはトロイに似ている。

エフェソのすぐ近くの丘の中腹に「聖母マリアの家」がある。イスラム教の国、トルコに聖母マリアの家があるとは…。

◇　◇

イエスがエルサレムのゴルゴダの丘で処刑された時、母マリアと使徒ヨハネはすぐ近くにいたと聖書にある。

ほかの弟子は離散していくが、ヨハネだけは最後までイエスから離れず、母マリアとともに行動した。そんなヨハネに、イエスは母マリアを託したのである。

ヨハネ福音書によると、イエスは母マリアに向かってヨハネを「あなたの子です」と言う。またヨハネに向かっては「あなたの母です」と言い「その時からヨハネはイエスの母を自分の家に引き取った」とある。

イエス亡きあと、使徒ヨハネは福音宣教のためトルコに向かうが、その時も聖母マリアを伴ってエフェソ近くに移り住んだらしい。

今でこそトルコはイスラム国家だが、当時は古代都市エフェソを中心にキリスト教を信じる人が多かった。キリスト教の最高会議「公会議」が西暦四三一年にエフェソで開かれていることでもわかる。

その公会議で「西暦四〇〇年、聖母マリアは使徒ヨハネに付き添われてこの場にたどり着き、晩年を過ごした」と認められている。

バスで「聖母マリアの家」に向かう途中、現地ガイドが「向こうに見えるのが、ヨハネの墓の上に建てられた教会跡です」と言う。

なぜ大切な場所に行かないのかと腹立たしかったが、団体の中でクリスチャンは私たち夫婦だけ。

「せめてバスを止めて写真でも撮れたら」と言ったので、帰りに全景がよく見える場所でバスを止め、時間を取ってくれた。

この旅で友達になった方から送られて来た「旅の想い出」には次のようにある。

「聖ヨハネ教会を遠望する。ここにヨハネの墓があるという。行程にはなかったが、クリスチャン夫妻の懇請によって実現。夫妻にとって聖ヨハネは特別な存在らしい」。

その彼が「ぜひ二人で一緒に」とシャッターを押してくれたのである。

（元山口放送取締役ラジオ局長）

右の円柱の後ろがヨハネ教会跡